

## コリント人への手紙第一 4 章 14-21 節「御霊による新しい力で生きる」

小池 宏明 牧師

兄弟姉妹の仲違い、分派や分裂の問題は、主なる神様の御心ではない。人間の自己中心な罪深さが引き金になっている。パウロは、コリントの教会における分派問題に心を痛めながら語ってきた。パウロは、自らが福音を伝えて、御霊なる神様の御力によって誕生したコリントの兄弟姉妹が互いに非難し合っているという悲しい知らせを聞いて、コリントの教会を非常に厳しく戒めている。

### \*親のような愛情で模範を示すパウロ

しかし、パウロは、兄弟姉妹たちが憎くて厳しい言葉をぶつけているのではない。14 節「私がこれらのことを書くのは、あなたがたに恥ずかしい思いをさせるためではなく、私の愛する子どもとして諭すためです。」パウロは、子どもを躱ける親のような愛情を持っている。14 節で「諭す」と訳されている言葉のギリシャ語には「心に置く」という意味がある。親が子どものために、子どもの益のために、繰り返し、繰り返し、言い含めるかのように教えて模範を示して育てているパウロの姿をイメージさせる表現である。確かにパウロは、初めてコリントに福音を伝えたので、コリント教会の生みの親の立場である。しかし、パウロはそのことを自慢しているわけではない。パウロが福音を伝えたので、聖霊なる神様が力強く働き、コリントに住んでいる多くの人々がイエス・キリストの救いの恵みを信じて受け入れた。そんなパウロは言う。16 節「ですから、あなたがたに勧めます。私に倣う者となってください。」パウロは、自分自身を見倣うことを求めているが、それ以上に、自分は主イエス・キリストを見倣って生きているので、その生き方に倣うようにすべての教会に求めている。このことについて、パウロは、ローマ人への手紙 12 章 9-21 節で具体的に語っている。開いてみてください。

### \*自分の力ではなく御霊の力で生きる

パウロは、繰り返し語る。20 節「神の国は、ことばではなく力にあるのです。」神の国は、上手に言葉を使うことではなく、相応しい生き方にある。その生き方を実現するために、主なる神様の力が必要なのだ。私たちは、主の御前にあって、何が良いことで、何が悪いことなのか、言葉では知っている。しかし、その言葉通りに生きようとすると、うまくは行かずに挫折を繰り返すことがある。人間の知恵や力をはるかに越えた、御霊なる神様の力によって人は創り変えられ、神の国は実現される。私たちも、パウロのように主イエス・キリストを見倣いながら、御霊の助けをいただいて、まことに愛の深いキリスト者を目指して歩みたい。